



和歌七部之抄

和歌文攬

特別
イ 4
3163
88 (1)



14
9163
88(1)

詠歌大概抄

情以新為先未以未詠之心詠之詞以舊可

用初不_レ定_レ之代集_レ先_レ達_レ一_レ不用風體可_レ勸_レ堪

能先達_レ一_レ秀歌不_レ落_レ古今遠近近代之人不

詠者之_レ心詞雖_レ一_レ句謹可_レ除_レ棄_レ之七八十年

人等不_レ詠_レ出_レ心詞於_レ古人歌多_レ以_レ其_レ同_レ詞_レ詠

之_レ已_レ為_レ流_レ例_レ但_レ取_レ古_レ歌_レ詠_レ新_レ奇_レ事_レ

五_レ句_レ中_レ及_レ三_レ句_レ者_レ處_レ多_レ分_レ無_レ詠_レ氣_レ二_レ句



詠歌大概

しよ三四字先之於案以同夏詠一百
歌詞歌無念元以花詠花以月詠月以同季奇詠意雜
奇以意雜奇詠以季歌如此之時意取
右奇之雜也

是月乃山時鳥
久方乃月此う
如月此道行人

如以之夏全流行及不怪之

年此内是去事より
楓散木乃上風
如此之歌詠二句更不可詠之

常觀念古歌之景氣可深心此可見習
者古今仔細物誤後撰拾遺三十六人集之用
村上手歌之包心人磨貫之忠今仔細物町
等歌之流歌和奇之先事時意之景氣世
乃之感裏為系物中向氏之集第一集二

慨常可^川概 深道^和等^心 和歌^無所^通 只以
舊^四歌^考所^深 公^在 風^明 詞^於 先^道 者^誰 誰^之
不^詠 之^哉

詠歌^大概

此^大概^と 伴^心 心^を 奇^と 詠^と 流^り 十分^乃 物
七八^分 心^{なり} たり^た 人^の 河^と 川^と 川^と
橋^を 走^り 下^り 石^を 流^る 不^得 且^と 人^と 事^{あり} 越^え
て 終^り じ^つ じ^つ 心^{なり} 又^大概^乃 心^也 又^大海^と
網^を 打^つ 心^{なり} 網^は 大^綱 心^{なり} 網^は 大^綱 心^{なり}
く^よ ぬ^れ 心^{なり} 網^は 大^綱 心^{なり} 網^は 大^綱 心^{なり}
同^更 之^も 云^ひ 大^概 之^も 云^ひ 大^概 之^も 云^ひ 大^概
心^{なり} 大^概 乃^心 有^る 三^條 橋^名 院^仍
先^入 道^者 之^説 云^ひ 一^冊 之^後 鳥^羽 院^清 子^提 井^宮

大^概

三

予使親王定家卿へ寄れ讀屋へ志願して
海へ舟へゆりて作らむ時ら書きて物あり
證事多大概なりと之は交清年一書之
ありけりし法義年一書と心得へ

一詠歌之 詠吟之字はよき

詩言心言永言詠歌互字同省心為志
あはれ為詩經よハ言詠諸如來と記
事詠一物詠ハ本方の柯

一歌と作ハ惣名あり

一大概 大率ハ 史記云 小概と蓋と讀也

伊ハ大略大抵ハ大略也
蓋ち凡と作ハ心也

情心新考先 求人未詠ハ心海

心意識ハ三と作ハ時ハ情ハ字ハ識ハ心ハ
あつらあり識ハ分別と物ヲ思案
あふと縁心あり人の心ハ詠セテ縁心
こまると縁セヨと心あり
伊ハ寸と云詞を伊ハ也
よみとむらむた人ハ未詠事
伊ハ心ありけり途ハ金

夢乃見しとわさうきし撰といせし〇煙眞
 此書よりしとて撰ゆは乱と初めしとてあ
 るに其書と何原大信れ心いめれゆへあし乱連
 初し君あよとてみしとてあれとて義之よ席
 弄くともを周ててせしとてあしとてあし心
 いたし撰ゆれ思しとてあし人我ゆへとてあし
 一と也海氏のむうしとてあしとてあし
 とてあしとてあしとてあしとてあしとてあし
 とてあしとてあしとてあしとてあしとてあし

一撰以新

撰名所委所託之性常経情也心海也

と情と作し之 面書好女徒如勅人情

詞以舊可辨

初不二三代集先達之不用新古今古人亦
同可用之

細字書乃分詞ゆきとてあしとてあしとてあし
 此心ら歌乃道とてあしとてあしとてあし
 乃之れ思のましとてあしとてあしとてあし
 奇同しとてあしとてあしとてあしとてあし
 奇同しとてあしとてあしとてあしとてあし
 奇同しとてあしとてあしとてあしとてあし
 奇同しとてあしとてあしとてあしとてあし

口傳とつゝ物も亦く初を起り續へ〜
又云定家御歌六別れ初と〜
古約と傳り〜
云奇之藏の通し叶と印と〜
定家御證年蓮け人と〜

一字も親王歌と為家へたつ縁と〜
あ〜く傳り〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

一為家心のゆ〜
此一辭と〜

○情のぬ〜
夜糖餅け〜
心も〜
と〜

一初以舊可角割不てか三代集た〜
成〜
分〜

先尊一初周只〜
新立〜

身つりしよ来と也不てお三代集と云つてあ
かたしれ夏とらゑなり一花中求花玉中探
玉け心歌讀れ身るるを美心しく

一後成部云○月やあぬ喜やじり一子よ真
常りあふふい集れ奇風情と學へ一とこ

風體可働落徳先達之秀奇

不論古今遠近見之恒
奇可働と評

前代の
奇人の
いふ

け初を前れ母らかりてをきとといひて
伊つこれ集赤修流道乃作者よとよめん
まこととみくま〜ぬ〜とく〜あ〜入〜雨〜
の歌れ中よ

ゆれひ光とま〜ゆりもあ〜あゆめ
あきめり流れ〜と〜あ〜つ〜西明風子
〇里にゆ〜雲〜とあ〜ぬ〜花〜く〜
かたれ風神とゆ〜り〜と〜これ〜あ〜人時奇の
とわ〜と〜う〜と〜あ〜ら〜と〜あ〜ん
あ〜と〜あ〜ら〜と〜あ〜は〜と〜あ〜な
あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら
あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら
あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら
あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら〜あ〜ら

たりやうぬへ一歌乃風神曲之河内作の歌
 まりしき乱るたれり一き河内作も亦あふ人
 の心とありし世とては通へん毛詩第一云治世
 し言安ん樂其政和と云 乱世えせくも乱たれ以たれ如たれて
 政乖ヤヤナリ 亦云雨中吟うらみも見兼記こらも同と一更
 乃何なし中ちゆうの作也しや心こころと一いかりして作也
 雨中吟うらみなる歌なりとの心付こころはなるとりたると
 ぬく思案しあんしるふとて風情ふうせいなるなりと歌之當
 一これいも業わざ一いる方と後のちも見ゆる也
 我讀われよみゆるしき歌乃河内作の事なりと
 した事ことなりと一いふとて心得こころえしとゆる事なり
 風情ふうせいなるなりと作るしと
 ○此風このふうは河内作このうらみなるもこれかありかかは河内このうらみ
 雨中吟うらみ此心このこころなりと一いふとて兼載けんざいの一い句くは
 雨中吟うらみ乃奇このきといふ句とて仍なほえ入道にゅうどう後のち所ところ流
 一風解ふうげ作しは堪た能たなりとけり事ことは此人の言
 一は情このせいと堪た能たしき先まづは形かたちなる人の事なりと
 一とて亦また是この乃奇このきより事ことは此の秀うらみ事こと一いは
 一なりとて且また先まづは歌之風解ふうげ形かたち要もとは物なり
 後成のちなるつ速すみ懐たふれ百首ひゃくしゆ湯ゆ一いれも面おもては一いは

たりやうぬへ一歌乃風神曲之河内作の歌
 まりしき乱るたれり一き河内作も亦あふ人
 の心とありし世とては通へん毛詩第一云治世
 し言安ん樂其政和と云 乱世えせくも乱たれ以たれ如たれて
 政乖ヤヤナリ 亦云雨中吟うらみも見兼記こらも同と一更
 乃何なし中ちゆうの作也しや心こころと一いかりして作也
 雨中吟うらみなる歌なりとの心付こころはなるとりたると
 ぬく思案しあんしるふとて風情ふうせいなるなりと歌之當
 一これいも業わざ一いる方と後のちも見ゆる也
 我讀われよみゆるしき歌乃河内作の事なりと
 した事ことなりと一いふとて心得こころえしとゆる事なり
 風情ふうせいなるなりと作るしと
 ○此風このふうは河内作このうらみなるもこれかありかかは河内このうらみ
 雨中吟うらみ此心このこころなりと一いふとて兼載けんざいの一い句くは
 雨中吟うらみ乃奇このきといふ句とて仍なほえ入道にゅうどう後のち所ところ流
 一風解ふうげ作しは堪た能たなりとけり事ことは此人の言
 一は情このせいと堪た能たしき先まづは形かたちなる人の事なりと
 一とて亦また是この乃奇このきより事ことは此の秀うらみ事こと一いは
 一なりとて且また先まづは歌之風解ふうげ形かたち要もとは物なり
 後成のちなるつ速すみ懐たふれ百首ひゃくしゆ湯ゆ一いれも面おもては一いは

~~~~~  
風神形 要如物也 定處ハ始々ハ此方成後  
ま〜 勅勅と 考ル 出〜 出〜 出〜 出〜 出〜  
みられ 面目と 考ル 出〜

近代之人 西縁出之心 初治為一 句謹可 除棄之

七十八年 定家之入 一 西縁出之 初縁出 一 西縁出之

け 初ハ定處ハ此禁制 初として 考ル 出〜 出〜  
こ 耳ハ 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル  
さ や 此初と 不之 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル  
頃 定處ハ 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル

宗通院 此時 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル  
考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル  
考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル

### 近代之人

○甲斐のハ 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル  
○ 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル

年ハ 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル

一七八十年 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル

後 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル

後 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル  
考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル  
考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル 考ル

古歌詠新 奇更五句中及三句若成る分無殊

氣二句し上三四字名くし於案之

右者三句十一  
通言八句三  
三句ノ歌ス  
スクキクトリ  
人ノ心ノ  
平ノ心ノ  
平ノ心ノ

川乃山阿鳥此類の喜文此云案とん案之  
可無とくめけしなすこ類とハ二句らん知し  
類之口字是とゆふとく人ハハ〇是川の山  
梅とくめけしなすこ類とハ二句らん知し

是と中奇しとて

定家

下者之移えしハ  
下者之移えしハ  
下者之移えしハ  
下者之移えしハ  
〇若利の心梅とゆふとく人ハハ〇是川の山

中歌し

〇年ぬとハ我里繁と白川乃山とくじまて成る事

け奇と解く

定家

〇年ぬとハ我里繁と白川乃山とくじまて成る事

中歌し

〇心川乃山阿鳥此類の喜文此云案とん案之

是と云て

定家

〇心川乃山阿鳥此類の喜文此云案とん案之

け家隆の心梅とゆふとく人ハハ〇是川の山

中歌し

定家

士

け家澄御此等と定赤心よわりのゆゑぬせ  
しるれうらんまに二句此上之四字是なるゆゑにれ  
是と果替りしる二句乃上と併しる○是河の  
山崎鳥○虫おれ道り人まこのたうらぶりつら  
二句上之四字是と替りしる○山崎の鳥  
つらうらと云詞を一ゆゑと併し二句此上之四  
はつらうら不可成しと云と梅名院家法統云  
一打古人并 為家ハ五句曰之句うらん更有人  
しつと併可成しと云と  
一取古歌 古并と取事大更と申上之句は

○年月と書あやどり

け并一宅家此心よゆらぬと

○善相の花咲ぬしと連珠の園のこまははゆる風

毎首花藤為家梅

君はた  
下の指  
とてゆく

○漣の浜のりしる瀟瀟山かむぬまそそは流にゆゆ

○橋敷水のあひまるとして波のあうらさうらら

以同事詠古并詞此意念也 花詠花月詠月

花をとりみたりん此歌にそをく今乃歌り  
知と淡月を濛ろらん古并あそ月をあふん  
との意念成へてとるるは一打やうらゆらん

来此又云修の程も其之度なれば不及は別  
大抵此心也。○又月まひの河島ゆへにうつくし  
おんぬこさくひのくすくす

豊後 四州  
此の事 奉り  
三三 三三  
報 三三  
三三 三三  
三三 三三

時之暇古歌之詠也

けほれ詞もてすしきりめくくはあり

此の事 奉り  
三三 三三  
三三 三三  
○朝日氣白く山は照れあつさう衣成はくす

是と云く  
○朝日氣白く山は梅花を面くし  
又古今歌

○二首は此の情小書受て古即ましく衣成あり

此の事 奉り  
三三 三三  
三三 三三  
歌百人一首也とのせりまきんきんきんきん

以て其新報は事よりつゆきし事子孫事以て  
報錄急報なりとも多し愚問賢答よ○こま文  
彼是と云て案際つ○志望は清や遠り

の波方より氷くわつ有羽る月○公あらん  
 人よとくも清れ國の強波くわつるの去れ光色  
 と是と前く為家つ○産り難波れ去る響  
 心われなると身と前りよ又定決つ○大元ハ梅の  
 匂ひは産つて暑りよとくぬ去れ去る月半  
 歌よ○照と路と思と果ぬ去れ去れ  
 月半よとく物とるよ赤人ぬ去よ○是月乃山  
 乃端わつ月侍と今ハ清ひく衣成とをそ  
 是よとくく新河○山の清く去く一由とわよ  
 去れ月出るとえりん去れ去れとん又定家ら

○都よたて練控くくとむる命一これ里乃これ  
 夕とあつらむ秋由之○満一とく宿成らるか  
 て練もつらつくとあつら一秋乃夕言一花あ家  
 夕とい古秋ととらんとも思らあ一とわとく  
 仍是清純

是河の山時鳥 みよれ 高野山 久野月の子  
 那云啼や翁 ぬわこの道り人  
 西若夏全治何彦不様と  
 是ハ石よ仔つら二句乃と三言ま移れ家  
 此とてゆる親

年九月廿五日  
 風の吹く  
 風

如清之歌... 二句文不... 録之

是ハ一白と... 智... 一青... とみ... くり... 詞  
 たりと... ち... ひ... 一... 一... 也... 詞...  
 歎... 詞... け... くれ... 一... 一... 詞...

大概此心也

常観念を歌之... 常観念を歌之... 深心討て見... 明... 古今  
 伊勢物語後撰拾遺... 予六人集之内... 討... 予  
 可掛心 人丸 貫之 忠岑 伊勢 小町 お 歌

古今和歌集  
 卷之六  
 長安の歌  
 其心約好...

其心約好... 一... 歌... 思惟... 也... 次  
 勅撰との... 一... 伊勢物語と... 末... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...  
 一... 一... 伊勢物語と... 一... 一...

古今和歌集  
 卷之六  
 長安の歌



へめゆのるんち今とものきしきくう跡る一向は  
 撰集とほりえちれれ修習物成とりひ名物とこ  
 しくしむまもと意念れらる今修習物終る  
 きゆりときこれば義と可治と修りて撰作者  
 と書きわさうあしとて修習小町あくらひ  
 とゆきこまよこそ人教有いさけ受法一社の  
 修りてあし一修りてさき有いおきて修習失念  
 りわとあしきしきと物し人あとのそれ赤人  
 を死りて之今此序よ人あふ赤人のかしり  
 せんりりゆきと赤人のあつりたるん事

かうもん有けりしひく歌集絶妙此作者  
 乃るあしりせらけむ人れおな今よりあしりて  
 人れ人と作しよるんとゆきこころせらるか  
 とちこくま今よりとらゆきりち修習よ修小  
 一撰集もと歌乃んととあしりて今より  
 起りりゆきりてと書てと人と作しゆりて  
 今よりゆきりてと文神此義くゆきりてと  
 八二三人と書し其人かハ信正遍照在原景行  
 文彦康秀之信正之信長撰小野小町大付  
 思ふ末之貫之忠孝ハ故集撰撰者ゆれん

作しぬえしはし今是より一り人丸小町の  
在今より一白あり何れも何れも  
道知れしはれし人をも作し人小町に  
いふはきりとり娘と何れも道行り同席に  
小町の作ししはれしとり娘れしとありと  
作しり娘ととり娘に玉津鳴る明神を海  
しよせしり母及所り度しやけぬ神一  
長深おのり年六人の日おのりしと惣一  
あしひちありしとありしとありしとありしと  
作しり人にとりしとありしとありしとありしと

と歌れしはしとありしとありしとありしと  
是しとありしとありしとありしとありしと  
一冊の深秘しとありしとありしとありしと  
也あしけしとありしとありしとありしとありしと  
ふしとありしとありしとありしとありしとありしと  
れ度ありしとありしとありしとありしとありしと  
よかありしとありしとありしとありしとありしと  
心は男也を好しとありしとありしとありしとありしと  
人数とありしとありしとありしとありしとありしと  
作しおれしとありしとありしとありしとありしと

ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
一人の心成は是の心成して歌の心成は是の心成  
ふありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成

常観念古歌系氣古奇と云くと云ふは  
一の是趣たは海ハ五月と云ふは  
友は言入らぬと云ふは  
と云ふはと云ふは

ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成

波風和歌之先達時言ハ景氣世間ハ感衰  
為物中白氏文集才一歩二帳章可極執  
深通和奇之心

けりハ心成ハ時言ハ景氣世間ハ感衰  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成  
ありはらぬは大概の心成へしは歌の心成

わく美と云一美と云ふは、  
素直は善に法ひ討つる事、業平極く人の  
秋の夜やさう所見を、そらしく、  
まらやけ事乃心、  
何ん花を散し、  
ゆるは、  
此の事、  
一亦に和洛門、  
老年、  
と若る、

海は、  
し、  
海、  
四年、  
し、  
れ、  
あ、  
と、  
と、  
物、



一物中 定家卿の母の事ありて一切を其れ  
とすとのよりしと如斯くは之れは二つの  
と可獲大なる物有常事有終始物と  
是なり

一性性書交之文集七卷一性之書一才二乃  
性也詩ありしより是とみりて其の  
と皆又之

和歌無師通只以嘉言為師深心於古風習約也  
先達者誰人不細之也

性約兼也其等之師通なりしといふ事也

詞と定家通しありしと有らば中家相違  
一ゆり是又秘事之性約と定家通しあり  
ぬ外也之師通なりしと云ふ之三人面と心  
なりしゆく秘事性約は母乃一書乃親  
性約親為定家と師通なりしと云ふ  
一ありしし其定家我んと思案ありし  
るこもあつたれば師は有らば其師は古  
乃序也と人の心をあはれしめて其れ之の  
親しきとあつたり師師はゆりけりて我人の  
師也別は師と有らば其師とあはれし

と云ふは、わらうと云ふは、舊事乃月神と見  
る。一と也。初と云ふは、あつらひと云ふ  
初は、わらうと云ふは、舊事乃月神と見  
る。一と也。初と云ふは、あつらひと云ふ  
中、此れ、伊勢小町、勢ありと云ふは、  
前也と云ふは、一と云ふは、あつらひと云ふ  
之、和事、無師、道と云ふは、  
舊事乃月神と云ふは、一と云ふは、あつらひと云ふ  
親れと云ふは、一と云ふは、あつらひと云ふ  
四、奇、師と云ふは、一と云ふは、あつらひと云ふ

あつらひと云ふは、一と云ふは、あつらひと云ふ  
師、近、河と云ふは、一と云ふは、あつらひと云ふ  
ま、と、親と云ふは、一と云ふは、あつらひと云ふ  
一と云ふは、あつらひと云ふ  
我心、一と云ふは、あつらひと云ふ  
子、大、事、一と云ふは、あつらひと云ふ  
心、一と云ふは、あつらひと云ふ  
一と云ふは、あつらひと云ふ  
口、外、者、也、一と云ふは、あつらひと云ふ  
吾、我、法、橋、一と云ふは、あつらひと云ふ

利人達と云は以墨河至分と共同古今序

と引事と秘事之梅名院法統云

和歌之御道 亦之教坊那要之

○安之盛之極之抱系此かしけ不しり何為

物之也強固法師をけ奇しきりしりり何家此

師道ハ有きりしりしりしりしりしり安加

門院ハ系阿佛口傳ハ書ニ有



